

# 鷹取山自然観察会会報

2014.2.9 No.3

## 自然観察の里山づくり

本多 久男

鷹取山は横須賀市と逗子に跨る三浦半島北部の残された緑地です。私はこの地域に住んで30年たちますが、引っ越してきた頃は自然には無頓着で山坂が多く不便を感じるものが多くありました。しかし、今ではこの地域の貴重な緑を残しておいて欲しいと願っている一人です。私が自然観察に目覚めたのは40代初めに仕事の関係もあり自然観察指導員の研修を受けたことによります。研修では自然保護の大切さ、自然の捉え方、自然観察の手法などを学び、地域での自然観察活動の必要性を感じたからです。

横須賀市北部でまとまって緑がある場所は田浦緑地と鷹取山周辺です。いつでも、誰でも気軽に自然観察できる場所があることは大変な財産だと思っています。芝生があって池があり、子供が走り回れる公園も必要ですが、それとは別に自然緑地も必要です。自然観察できる場所は特に大きな施設と費用は必要ではありません。「自然観察の里山づくり」ではいくつかの準備が必要です。

一つめは案内板の整備です。自然観察路を設けて個人で散策する場合の補助的な案内板です。鷹取山山頂付近には季節に見られる生きものを掲示板でポスター掲示すればよいと思います。チラシがあればもっと親切です。また、樹木板の設置です。これは既に鷹取山周辺に設置してありますが、観察路にももう少し設置するとよいと思います。

二つ目は生きもの調べです。昨年からは植物相調査を開始しましたが鷹取山に生息する生きものの現況把握は基本的なことです。しかしながら全ての生きものを調べることは難しい作業ですが、その反面わからないことを知

る楽しさもあると思います。今後は専門家を呼んで勉強会もしていきたいと思います。植物相だけでなく、今後、蝶、野鳥などにもチャレンジしていきたいと思っています。

三つ目は、自然保護活動です。今すぐできるわけではありませんが植樹や絶滅種の保全などです。鷹取山周辺では木の伐採が目立っています。ギャップも生じて自然復元も時間がかかります。固有種のシイ、カシ、タブといった樹木を植樹していくことも良いと思います。ヤマユリ、エビネなど絶滅危惧する草本も保全していきたいと思います。また、野鳥の巣箱づくりも3月に行いますが野鳥の住処を増やすことも様々な意見はありますが保護活動のひとつと考えます。昆虫など開発が進み絶滅した種も多くあると想像できます。たとえば子供の好きなカブトムシやクワガタムシなどは今ではほとんど見ることはありません。カブトムシを増やすにはコナラなど落葉樹の腐葉土が必要です。生き物が生息できるビオトープを作ることにも良いと思います。

そして自然観察を指導する指導員がいることです。定期的な自然観察会の開催と子供達など団体に対する案内人の確保です。植物だけでなく、昆虫や野鳥の観察なども指導できるスタッフの確保も必要でしょう。

やっていること、やろうとしていることは、小さなことばかりですが積み重なれば少しばかりの成果はあると思います。みんなで楽しくやっていければよいと考えています。

興味のあることに是非ご参加ください。

鷹取山の花と樹：HPを見て下さい

## 鷹取山でみられる樹木

鷹取山の植生は東京湾に近く、また、気候的には暖温帯の地域であり照葉樹林といわれるスダジイ、タブノキ、アラカシなど常緑樹が多く、山を歩けば普通に見られます。ここでは、鷹取山で見られる樹木の一部を紹介します。

### シバヤナギ

ヤナギ科ヤナギ属のシバヤナギです。ヤナギというと川辺に良く見られますがこちらは山地の斜面や丘陵の崖地に生えています。県内には丹沢の山地から箱根、三浦半島に普通に見られるようです。鷹取山では頂上付近の岩場で数株が見られます。高さは2メートル程度の低木で枝はよく枝分かれして横に広がっています。低木で岩にこびりついて生えています。雌雄異株でここでは雌雄両方の花が見られます。花は桜と同じ4月初めに咲き始め、雄株では雄花序が黄色い花粉を付けて花序の中心軸からキツネのしっぽのように花序を伸ばして咲いています。雌株では雌花序が薄い緑色の短い花柱を10センチくらい伸ばして先が垂れて尻尾のように見えます。



### ヒメウツギ

ユキノシタ科ウツギ属の落葉低木で高さ2メートル程度です。鷹取山の頂上付近ではよく見られます。ウツギより1～2月ほど早く、またどのウツギよりも早く咲き始めます。順番としては4月初旬～中旬にヒメウツギ、5月初旬～マルバウツギ、6月初旬～ウツギと咲いていきます。姫の名のとおりウツギよりも全体的に小型です。花は枝先に円錐

花序を出し、白い5弁花をたくさんつけます。この周辺ではこの他にコゴメウツギ、ハコネウツギ、ツクバネウツギなどウツギの名がつく種類がありますが、ハコネウツギ、ツクバネウツギはスイカズラ科の仲間、コゴメウツギはバラ科の仲間です。花の形をよく観察するとその違いがわかります。



### ジャケツイバラ

マメ科ジャケツイバラ属のつる性落葉低木です。鷹取団地から鷹取山への桜並木の途中（左手方向に岩場の脇）に鮮やかな黄色いつる状の花が見られます。ジャケツイバラの特徴は何と言っても名前のとおり鋭いバラセン様の棘があることです。幹から枝から葉まで植物体全体に逆向きの鋭いトゲがあります。そのトゲの木で生け垣として利用することもあります。ジャケツイバラという名前は、からまった幹を蛇がとぐるを巻くようすに見立てたものとされています。枝の先に5月はじめから中旬にかけて黄色い花を咲かせるので、よく目立ちます。マメ科ですが他のマメ科の花と違いがありその形も独特です。花の咲いた時期によく観察してください。



## ☆ 巣箱作りをしませんか ☆

巣箱を作って、鷹取山の木に取り付けます。作り方は、切っている板をクギで打ち付け、組み立てるだけなのでむずかしくありません。使いやすいカナズチを持っていたら、持ってきてください。なくてもよいです。それ以外なにもいりません。

参加したい方は、グループは代表者が、一人の子はそれぞれが必ず電話で申し込んでください。

- 参加できる人：5年生と6年生  
(4年生以下の子は、5, 6年生以上の兄弟か、家の人と参加してください)
- 参加人数：先着10組(1組2~3人) ● 作る日：3月1日(土)9時30分
- 集合：鷹取小学校正門 12時解散 (雨天は2日(日)に延期します)

## ☆ 鷹取山植物相調査について ☆

自然観察会では毎月1回植物相調査を実施することにしました。第1回目は11月24日(日曜)、参加者8名で10時から15時まで行いました。植物相調査の方法は、環境省自然環境局及び日本自然保護協会における「モニタリングサイト1000里地調査マニュアル」に準じて行いました。調査マニュアルはホームページに掲載してあるものをダウンロードいたしました。

調査マニュアルでは、木本及びシダ類、イネ科、カヤツリグサ科は除いてもよいとなっていますが、私たちは植物の同定等の勉強もかねて維管束植物のすべてについて調査することにしましたが園芸種で植栽された植物については除くことにしました。



調査は全員で一緒に調査ルート歩き、種名は全員で確認の上記載していきました。記載の方法は木本類、草本類、シダ・イネ科の3グループに分けて記載することとした。

1回目は思いのほか時間がかかり全てのコースを回ることができませんでした。特に、シダ類は図鑑などを見ながらでしたので困難でした。2回目は12月15日(日曜)に6名で実施しました。2回の実施で280種を確認を行いました。今後、原則月1回開催する予定です。植物に詳しくない方でも参加自由ですので気軽にご参加ください。春には一斉に草花が咲き始めて調査も大変ですが楽しく観察していきましょう。

4月以降は蝶類の生息調査も行いたいと考えています

# コラム

## トキワツユクサ（常磐露草）（ノハカタトウクサ：野博多唐草）

トキワツユクサは、オオキンケイギクのように特定外来生物に指定され、栽培・運搬・販売・野外に放つことが禁止されている植物ではありません。でもその繁殖力は旺盛で、駆除が望まれる植物ではないのでしょうか（要注外来植物に指定されているそうです）。近頃は三浦半島や鎌倉の山々、どこに行っても見かけます。場所によっては、トキワツユクサだけでなく、他の植物は生えていません。

観察会の講師の方に質問してみました。

「駆除する方法はないのですか。天敵はいないのですか」

「天敵はいません。困っているのですが、、、これだけ繁殖してしまうと、、、何回か霜でも降りてくれれば減るかも知れませんが、、、寒さに弱いので、、、」

別の方に質問してみると

「切れ端からも増えるので、踏みつける、踏みつぶすしかないですね」

駆除については、お手上げといったところでしょうか。

トキワツユクサは、取り残すとすぐそこから再び増えてしまい、草の切れ端からも繁殖するので、駆除するにはすべてをゴミ袋に入れて持ち帰ることが大切ようです。しかし、広い範囲を、時には危険な場所を少人数で駆除作業をするのは難しく、どうしたらよいのか困ってしまいます。考えられる有効な方法は、人海戦術で人の手で取り除くことでしょうか。小網代の森では、実際にそうやってすべてのトキワツユクサを駆除したそうです。成功した例はあるのですが、何とかしたいと

思いながらも手がつけられないのが現状なのでしょう。

では鷹取山のトキワツユクサの現在の繁殖状態はどうなっているのでしょうか。浜見台から神武寺までのハイキングルート歩いて調べてみました（HPの地図参照）。

☆浜見台ハイキングルート入口付近

（斜面全面に繁殖。その中に生えるシラユキゲシは今後どうなるのでしょうか）

☆鉄塔下田浦からの農道との合流地点付近

（この付近、ツルマサキが多い）

☆湘南鷹取第5公園グラウンド上の耕作地付近（付近にカゴノキあり）

☆田浦からの階段付近

（付近にイヌザクラの大木あり）

☆湘南鷹取2丁目からの階段付近

（斜面全面に繁殖）

☆鷹取山登り口坂道両側

（もうじき山頂広場にも広がるかも）

☆神武寺逗子中学前

（マユミ・キブシの下に。除去可能）

などに繁殖がみられます。一部の場所を除いて、いずれも危険な斜面に繁殖しており、人手による駆除は容易ではないと思われます。したがって、除いては増えを繰り返すこととなるかも知れませんが、除ける範囲での除草を繰り返すしかないように思います。今はトキワツユクサとその周りの植物との関係やトキワツユクサに対抗できる植物があるのではないかと観察を続けています。対策のヒントが得られればよいのですが、、、。（N）

**鷹取山自然観察会に参加しませんか**（毎月第2日曜日。HPを見て下さい）

HP：鷹取山の花と樹 <http://homepage3.nifty.com/takatoriyama/>

連絡先：世話人代表：本多久男 e-mail：fwjg2350@mb.infoweb.ne.jp

tel：090-4177-0164